東山の森だより

【第１８号】

発　行：なごや東山の森づくりの会
発行者：滝　川　正　子
編　集：広　報　班
発行月：2013年4月
（年2回発行）

・多様な昆虫が潜む東山の森　（井上昌次）　……　1
・東山の森の生物たち　動物　「カナヘビ」（鎌田大資）　植物　「クワ」（服部光孜）　……　2
・森づくりに思う　（山田英津子）　……　2
・子どもを育む　東山の森と子どもを育む　（木村哲央）　子どもたちの声　……　2～3
・森で汗をかこう　定例森づくり、班活動の紹介　……　3～5
・森の表情　竹くらぶ研修『京都市洛西竹林公園』を訪ねて　（中村民子）　……　6
・森づくりを生かした支援・交流・お知らせ　……　6

多様な昆虫が潜む東山の森

井上　晶次

「灯火採集から見た東山の森」

都市の緑地にどのような昆虫が生息しているのか調べてみようと二〇〇六年と二〇〇七年に市内の六カ所（二〇〇六年は五カ所）の緑地で同じ日に灯火採集による昆虫の調査が行われ、それに参加した。その結果は報告書としてまとめられている。簡単に紹介すると、報告では各緑地について、甲虫の仲間は採集した成虫の生息環境を、樹木、草地、湿潤な水辺、地表面、倒木・朽木の環境別に分類し、ガの仲間は採集したガの幼虫の食べ物を、針葉樹、ドングリの仲間の広葉樹、その他の広葉樹、草本、水辺の植物、枯葉、地衣類・菌類に分類し、その種数を各調査地別に比較検討した。

その結果は他の調査地点と比較して、東山の森は甲虫の仲間も、ガの仲間も多種の昆虫が生息し、湿潤な水辺、畑、雑木林と多様な環境が残されている緑地であることを反映した結果となった。それ以降毎年東山の森の二か所で灯火採集による昆虫の調査が実施されているが、この七年間で昆虫が減ったと言う結果は得られず、逆に調査をすればするほど新たな種が採集されている。この結果は東山の森の環境は守られているといえる。数年前に「くらしの森」で大規模な水辺環境の工事が行われ、水辺環境に生息する昆虫の心配をした。しかし、灯火で採集した甲虫類からは特に変化は見られなく胸をなでおろしている。

「ゾウムシの調査から見た東山の森」

私事ではあるが私は甲虫類の仲間であるゾウムシ科の仲間が好きで、一九八〇年ころから東山の森を含め、千種区内でゾウムシの調査をしてきた。ゾウムシ科は日本から約九〇〇種、愛知県から約三五〇種が記録されており、東山丘陵（東山の森と名古屋大学東山キャンパス）から一一〇種が記録されている。東山丘陵での一一〇種が多いか少ないかについては議論が分かれるが、私は北海道から琉球列島まで多様な気候帯、植物帯がある日本のゾウムシの十二%がこの東山丘陵に生息していることは驚きであり、非常に多いと考えている。若干の不安は、日本のゾウムシの調査が不十分な結果ではないかと思うことである。

「いつまでも昆虫と出会える東山の森を」

東山の森には湿地があり、池があり、小川が流れ、雑木林があり、畑があり、最近では田んぼでの稲作もはじめられた。子どもの頃昆虫採集をした田舎の風景を思い出す。これらの環境は人手が加わらなければ維持できない。灯火採集に参加して以降、「なごや東山の森づくりの会」に加入させていただいているが、まだ森づくりの活動に参加できていない。いつまでも昆虫と出会える東山の森を守るため、今後はその活動に参加しなくてはと反省している。そして虫好きな人特に昆虫少年少女が増えてほしいと思っている。

シロコブゾウムシ

【 東山の森の生物たち 】

動物 「カナヘビ」

鎌田　大資

＜カナヘビのお世話をさせていただいた半年＞

暮らしの森から拉致したカナヘビ様を、当時の息子（小5）のマイブームの苔盆景（こけぼんけい）風に苔をしきつめた水槽に移しました。エサはバッタやクモでいいので助かりました。やがて苔の下に隠れて、たくさん卵を産みました。カナ様はメスでした。体力には恵まれていたものの、家族が日向ぼっこを長くさせすぎて熱死。その後、十一個の卵がかえり、赤ちゃんたちをお世話しました。

エサ用のアブラムシは炎天下でなかなか見つからず、ジョロウグモやナガコガネの巣につくシロガネイソウロウグモなど、小さなクモさんを捕まえてくるのが習慣になりました。毎日、十分程度の日向ぼっこ、はまっておぼれない程度の水のみ場、隠れたり登ったりする枝が必要だそうです。数匹ずつ、暮らしの森に放し、最後まで残した三匹のお子様たちも自然に冬眠してもらうべく、十一月には放しました。いつかまた会いたいものです。

植物 「クワ」

服部　光孜

新池横の桑の木の実を見ると、なつかしい母の幼い頃の思い出話。夏「夕食前、家裏にある桑の甘い実を幾つか食べるの、黒い果汁（濃紫）が口の周りに残ってね、いつも母さん（祖母）に叱られたわ」。桑の果実には、その彩りが女性の顔に似て3変化、白い未熟果はサクランボ色に染まり、熟せば濃紫色に。戦前、養蚕が盛んだった頃の名残りなのか、よく見かける木です。今は葉を採らなくてよくなったせいか、成木は実を沢山つける。

ところで、桑の葉七変化ってご存知ですか？同じ木の葉なのに形が定まらないってことで、3裂あり、広卵形あり、2裂あり、5裂あり、切れ込みも浅かったり、深かったり。桑は落葉高木ですので、冬に落ちた葉も観察したいです。

桑は、果実・根皮・枝・葉を薬用として用いられ、桑の実で作ったクワの実酒は滋養強壮に効果を発揮し、根の皮は、風邪の咳止めに用いられる等よく知られてます。

♪♪　赤とんぼ　♪♪

夕やけ小やけの赤とんぼ　負われて見たのはいつの日か
山の畑の桑の実を　小籠に摘んだはまぼろしか

（詩：三木露風　　曲：山田耕作　　1921年）

【 森づくりに思う 】

山田英津子

恥ずかしながら、徒歩で20分位の場所に住んでいるにも拘わらず、直に足を踏み入れ文字通り森を“体感”するまで、東山の森は近くても遠い存在でした。しかし子供が生まれ、できることなら自然を身近な存在として育ってほしいという願いが心の中からふつふつと沸いて来たとき、幸運にも自然観察会のことを知り、森づくりの会と出会うことができました。 この地にこの環境が残されている事の有難さを改めて実感しています。様々な方々と出会い、教えて頂き、一緒に作業できる、そういう“場”がある事にも。一人っ子の娘にとって、森で出会えるお友達、親以外の大人と接することができる場は本当に貴重です。田んぼやそば畑の傍らで、そして大人たちが作業している傍らで、遊んだり手伝ったり（邪魔をしたり？）している様を見る度に、こうやって東山の森の子どもとして育つ幸せをしみじみ感じています。 今年4月から娘も小学生、子ども森づくり隊に入れる年齢になりました。親子共に今からワクワクしています。これからも、どうぞよろしくお願いいたします。

【 子どもを育む 】

東山の森と子どもを育む

木村　哲央

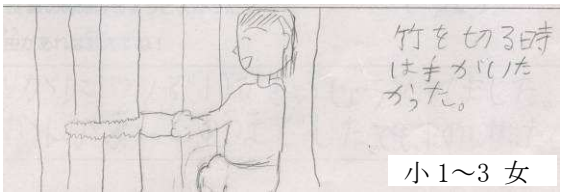
私は中区栄生まれの栄育ちで、母親の里も伏見、つまり子供の頃から「田舎」知らずで育ちました。そうした生い立ちからして里山への憧憬の念は強く、夏休みに家族旅行で長野県・木曽の薮原へ行くことが、自分にとってせめてもの「田舎」でした。約十年前、岐阜県・本巣在住の知人から里山開発に誘われましたが、結局実現には至りませんでした。やはり自宅から遠いことがネックだったと思います。その点では、この「東山の森」は、いわゆる裏山へ出掛ける感覚で活動に参加できます。都会でのスローライフを追求する上で絶好の場所ではないかと思っています。現在我が子が七歳と五歳に育ち、私と妻と共に活動に参加させて頂いております。自分が子供の頃に無かった裏山が、我が子らにはあるのです。いま家族全員で楽しめる場所が得られて、感謝の念に絶えません。活動

に参加してみて、とても嬉しい発見がありました。田植えや草刈り、虫探しなどを通じて、我が子が様々な世代の方々と自然に交流できている事です。森づくりという目的が人との調和を生み、やがて潤いのある社会が形成されていくということを、彼ら自身が自分の体験として育んでいってくれることでしょう。

子どもたちの声　　子ども東山の森づくり隊講座より

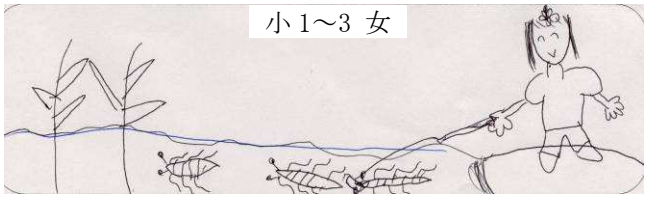
第三回講座「竹伐り体験と森の恵み」

小２ 男



小１～３ 女

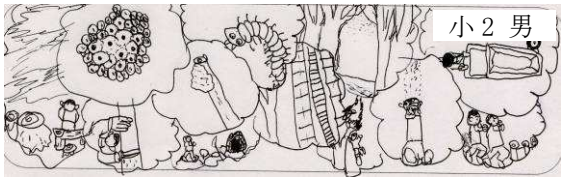
小２ 男

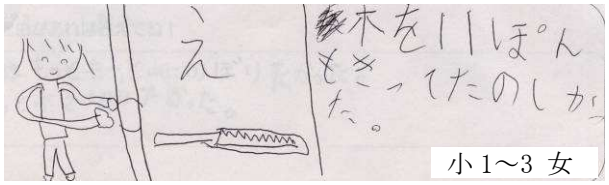

小１～３ 女

アンケート主な感想：もっとあそびたがった。　じかんがあっという間でした。
先生がやさしく、じょうずにおしえてくれた。ザリガニつりがたのしかった。

第四回講座「雑木林できこり体験」

小５ 女


小２ 男



小１～３ 女

小４ 男

アンケート主な感想：もう少し散さくする時間がほしかった。　ノコギリをつかうのがたのしかった。
木をきってあかるくなったからたのしかった　山のぼりがたのしかった

【森で汗をかこう】

定例、班活動の紹介（各班からの投稿）

★定例活動　　**鬼頭　保**

活動：毎月第１日曜日　10:00～15:00(7～9月は9:00～12:00)

活動エリア：奇数月＝ふれあいの森・いのちの森・うるおいの森
偶数月＝くらしの森

下半期延べ参加数181名（内、子ども14名）

定例森づくり活動は、樹木や竹の除伐、大カマによるアシ刈りなど体力を要する作業があり、他の班活動に比べて作業時間が長くまた危険が伴う作業も多々ありますが今期も大した怪我もなく活動できたことは何よりです。しかし時には少し過酷な活動もあるのか、参加数は2年ほど前に比べると約2／3に減少しています。月1回のこの定例森づくり活動は、当会の「森づくりの原点」であり「交流の場」でもあります。半日でも時間の許す範囲で構いませんので、お気軽に参加していただきたいと願っています。

★班活動

①　平和公園里山班　　**大槻　一**

活動：毎月第３日曜日　活動エリア：くらしの森

会社生活を終えて、故郷信州の野や山が懐かしく平和公園での散策の途中で活動を知り、自然の森の中で汗をかこうと入会して２年が経ちました。班の活動は、“楽しく“無理せず“協力し合う、和やかな雰囲気

の中で冬場は雑木林の整備や椎茸ホダ木作り等の作業を行っています。会員の皆さんは生き生きとし熱心で知識豊富なことにも感心ばかりです、里山の魅力と共に多くの皆さんと出会えたことが私にとって大きな財産と励みになっております。これからも自然と人との交流を楽しみながら魅力溢れる「くらしの森」を目指して活動を続けていきたいと思っています。

② 東山公園南部里山班　　滝田　久憲

活動:毎月第 4 土曜日　　活動エリア:いのち森・うるおいの森

東山南部里山班の活動場所は東山公園中部と南部地域です。活動範囲が広いことから、四季折々で活動場所を変えて作業を行っています。ところで、このような地面にへばりついたような活動を続けていると、ついついと全体が見渡せなくなります。そこで、時折、鳥のようになって高いところから森全体を俯瞰して見たいという衝動にかられます。先日、名城大学のタワー75 という建物を訪れる機会があり、15 階の展望フロアから東山南部の森を眺望しました。森はまだ眠っているようでしたが、大きな可能性を感じました。

③ 竹くらぶ　　三村　由江

活動:毎月第 3･4 木曜日　活動エリア:くらしの森

「竹のふしぎ」と題して、「あいち環境絵本・紙芝居まつり」の紙芝居の部で優秀賞を受賞しました。この紙芝居は、子ども森づくり隊の竹伐り体験講座のために作られたものです。

子どもたちが竹に興味を持ち一緒に竹林整備に参加して、自然に対して考えるきっかけになるように書かれています。受賞後は、環境プログラムとして、県内の幼稚園などで読み聞かせを行なったり、児童館での展示、愛・地球博記念公園内の「もりの学舎」で展示されていて、たくさんの人に東山の森を知ってもらえるいい機会となりました。

④ 子ども東山の森づくり隊　　坂野　静雄

活動:下期 2 回(11 月、2 月)　活動エリア:くらしの森・いのちの森・うるおいの森

なごや環境大学「共育講座」の 2 回延べ参加数 151 名

2 回の講座は午前中、竹伐り、雑木林の伐採をしました。午後は自由散策で 11 月は竹細工、リースづくり、竹のぼり、バンブーダンス、生き物探しに分かれ、2 月は藪こぎ、尾根の斜面登り、自然観察などで大いに楽しみました。
雑木林の伐採では倒木など危険から子ども達を守るためにヘルメットを着用しました。

⑤ 炭焼班　　柴田　達男

活動:毎月第 3 土曜日　　活動エリア:くらしの森の炭焼広場

平和公園に通いだしてどれほどたつだろう。初めは自然観察会に参加させて頂いて、身近にある自然なる物が如何に神秘に満ち溢れていて貴重なものであるかを学ぶことができたが、如何せん学習能力が乏しいせいか知識の方はお粗末なまま時間だけが恥かしい程流れてしまった。しかし私にとってここは「もう一つの時間が流れている空間」であり、金では買うことができない場所。今、炭焼き班でお世話になっているがこれからも皆さんとここを大事に守ってゆきたい。

⑥ 田んぼ班　　平田　泉

活動:随時　　活動エリア:くらしの森の田んぼ

体験講座 8 回/年

米作りを体験したくてチャンスを探してました。そんな時、いつも気になっていた里山の家で、米作りに参加できることを知り田んぼ班に入会しました。子供と一緒に参加なので、うまくいくのかな？と心配しましたが、４月からほぼ１年、親子共々充実した日々を送ることができました。田起こしからはじまり、餅つき大会、そして、しめ縄作りまでと最後まで米づくりを満喫できました。田んぼ班の方々と活動していると教えていただくことがたくさんありました。
その中でも一番心に残ったのは、しめ縄作りのとき聞いた「稲は、どこも捨てるところが無いのです。」という言葉です。最後に藁を田んぼへ撒くとき、次回の田んぼ作りも充実した活動ができますように！と思わず願ってしまいました。

⑦ 畑　班　　廉岡　淑子

活動:毎月第 2・第 4 日曜日　　活動エリア:くらしの森の畑

体験講座 4 回/年

石積みの段々畑の美しい景観を見て作物を育て自然とより一層一体感のある場所にしたいという思いで早 4 年目、やっとミミズが出るまでの土になりましたが、まだまだ石ころが多く、冬場は石拾いが主作業となっています。昨年 2012 年は、さつま芋・じゃがいも・里芋と根菜類を主として、かぼちゃ・空芯菜等々10 種類の野菜を育てる事が出来ました。近々には立派な大根を育てたいと思っています。2012 年の参加総人数は 808 人（子供は 192 人)、ファミリーでの参加も増え、老若男女と子供たちの会話が弾み、笑い声のたえない自然学習の場になっています。

⑧ 藤巻班　　佐藤　利和

活動:毎月第 2 土曜日

活動エリア:いのちの森東部藤巻町地内

竹藪の整理から始まった森づくりは定常的な活動になり、春は竹藪の整理、夏は蔓、草や笹の整理、秋から冬に常緑広葉樹の伐採作業を行っています。残念ながら常緑樹の大径木を伐採する技量も道具も無いため完全に落葉樹の森にすることはできていませんが、明るい森になり散歩する人々から作業中に時々感謝されています。これからは残すべき木々の名札掛けや散策路の整備など新しい作業も増えてきます。ぜひ一度散策に来てください。

⑨ 調査活動班　　滝川　正子

活動:随時　　活動エリア:東山の森全域

<灯火採集はおもしろい>

森の環境を虫たちから知る方法として灯火採集を毎年しています。2012年度の講座参加者88名で行いました。8/4灯火採集調査は？8/18灯火採集実施、8/19虫の展翅、展足をして標本づくり、11月展翅下ろしと時間をかけて同定会を行い、11/24報告会を行いました。今年は採集日を2回から1回にしたためか、種数も少なく毎年採れる甲虫類ではナミテントウやサビキコリ、蛾類もボクトウガ、コスズメなど採集されませんでした。

⑩ 東山の森そばくらぶ　　長谷川紀男

活動:毎月第 1 土曜日　　活動エリア:猫洞通 1 バス停東側

「そばくらぶ」として、昨年ソバ栽培以外に 棉の栽培も行いました。里山再現には、綿も良いだろうと素人集団で始めましたが、これが意外に人気で道行く人やカメラを向ける人が多く、昔の里山風景を回顧している様でした。私は、棉の栽培は初めてで、最初に黄色い花を付け、受粉すると赤くなり、花が落ちると実（コットンボール）が出来、11 月～12 月にコットンボールが 4 方に裂け中からふわふわした白い綿が出る生態を見て感動しました。今年もまた、この感動を味わう為、棉栽培をしたいと思っています。

＊各班の集合場所、時間などの詳細は出来る限りホームページ「活動予定」で案内しています。皆さまの積極的な参加をお待ちしています。

【 森 の 表 情 】

竹くらぶバス研修『京都市洛西竹林公園』を訪ねて

中村　民子

1月17日、20名の元青年男女が京都へと出発。バス内では「竹クイズ」で頭のトレーニング。昼食は長岡京市の老舗『錦水亭』の湖水に浮かぶような座敷で『竹御膳』の柔らかい筍の天麩羅に舌鼓をうち、目的の竹林公園には1時ジャストに到着。当会の顧問的存在である渡邊政俊さんの引率で、まず展示室で様々に利用されてきた竹と人の繋がりを学んだあと、待望の竹林散策へと進みます。冬景色とはいえ垂直に空へと伸びている竹林の美しさに独特な感動を覚えながら巡りました。順路の最後のほうには亀甲竹林と金明孟宗竹林があり感動と異彩を放っていました。こうしてよく手入れされ特長が顕れた林相を見ると、くらしの森の竹がいかに巨大化した姿であるかを感じます。なぜか15種類を超える竹があるくらしの森で、キリがない？竹伐に何とか夢をもちたい、と思ってきた私なので、今回みんなで一緒に竹を学べたことにとても期待を感じています。早速第2弾も計画しています。

【 森づくりを生かした支援・交流・お知らせ 】

★支援・交流

- 名古屋市職員研修「NPO 派遣研修」研修生受入れ(名古屋市)
- なごや生きもの一斉調査・2012 陸貝偏(なごや生物多様性保全活動協議会)
- どんぐりクラブ(蓮教寺)
- 大坂池周辺植樹活動(郷土種子保全協議会)
- 猫ヶ洞池生きもの調査(なごや生物多様性保全活動協議会)
- 里山くらし体験「田んぼ講座」「サツマイモ講座」(名古屋市)
- なごや東山の森「里山」にでかけよう！(SAVE・JAPAN プロジェクト、損保ジャパン、PSC)
- 猫ヶ洞池ゴミ拾い(日本野鳥の会愛知県支部、名古屋市)

★お知らせ

- 「竹のふしぎ」紙芝居表彰される(愛知県　あいち環境絵本・紙芝居まつり)
- 「名古屋まちなみデザインセレクション貢献賞」表彰される(名古屋市)

★ホームページを見てください!!

⇒ 当会の活動を紹介するホームページです。

定例活動・班活動の様子や結果の報告、子ども森づくり隊の案内、各種イベントの紹介、森の中で観察された生きものの紹介などなど内容豊富です。ぜひご覧ください。

なごや東山の森づくりの会　検索

自然を豊かにし、人生を豊かにする森づくり活動に参加しょう！

《会員数：3月末日現在 194名（個人 189名　企業5社)》

《会員募集》

人と自然の いのち輝く森

「東山の森づくり」に参加しませんか！！

年会費：2,000円 （企業：10,000円/1口以上）

入会申込・問合せ：〔連絡幹事〕鬼 頭　保

Tel／Fax:052－751－9510

e－mail: kito022445@mediacat.ne.jp

編集後記

投稿歓迎⇒ 水谷泰通　Tel:052-782-5036

e-mail :y-mizutani@r7.dion.ne.jp

子供のころ遊びまわった田舎の里山での経験から、東山の森には大型甲虫が少なく、どちらかといえば貧相な森だなと思っていたが、巻頭の、ゾウムシからみると豊かな森だとの実証的な一文、多面的に物事をみないと誤った結論に行きつく危険があるとあらためて反省した次第です。